

閲覧用



熊野川懇談会ニュース

第16回熊野川懇談会を開催



撮影日：令和3年10月31日

Contents

- 第16回懇談会の概要
- 熊野川懇談会へのご意見受付方法・資料入手方法

No.17
2021年12月発行

第16回熊野川懇談会が開催されました

第16回熊野川懇談会が開催され、熊野川河川整備計画の目標、関係住民の意見聴取方法（案）について、意見交換が行われました。

第16回熊野川懇談会の主な内容は以下のとおりです。

<第16回 熊野川懇談会の概要>

◆ 開催日・場所

- 開催日：令和3年10月31日（日）
- 開催方法：WEB会議
（Youtubeでのライブ配信を実施）
- 参加者：懇談会委員 12名 3名欠席
河川管理者等 7名



■ 第16回熊野川懇談会の様子

◆ 議事内容

1. 河川整備計画の方向性について

熊野川河川整備計画の基本的な考え方や目標について、つぎのとおり確認された。

1) 熊野川河川整備計画の基本的な考え方について

- ① 気候変動の影響により頻発化・激甚化する水災害から地域を守る。
- ② 持続可能な総合的な土砂管理を実現する。
- ③ 世界遺産の川にふさわしい河川環境等を保全、継承する。
- ④ 水辺とふれあい・交流を育む空間を形成する。
- ⑤ 水理・水文や土砂移動などを調査、研究する。

2) 「洪水等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標」について

- ① 熊野川河川整備計画の目標流量として、基準地点相賀において22,000m³/sの流量を安全に流下させる。
- ② 平成23年（2011年）9月洪水と同規模の洪水（ピーク流量：約24,000m³/s）に対しても、水位をできるだけ低下させることに努める。
- ③ あらゆる関係者が協働して人命・資産・社会経済への被害軽減を図る。

（委員からの主なご意見） ■委員からの意見 □河川管理者等からの回答

- 流域治水については、これから関係機関と調整しながら対策を考えていくことになるが、気候変動の影響により想定外の洪水が起こる場合もあるので、完璧に守ることは難しいがいろいろな方策を進める必要がある。（井伊委員）
- 河川整備計画の目標が22,000m³/sと示されたことについて、基本高水までに残り2,000m³/sとなるが、ダム対応及び流域治水の配分の考え方は。（立川委員）
□流域治水の中に河道整備、ダムによる事前放流、森林保全、まちづくり、水田等による貯留、避難施策なども含まれているが、そのうち河川管理者が責任を持って河川整備する目標は22,000m³/sとなる。
（紀南河川国道事務所）
- 整備計画目標が河道で達成できない場合、利水ダムの治水運用に一步踏み込んで早く協議した方がよい。
（藤田委員長）
□ダムの事前放流について洪水調節機能などの効果が発揮できるものは見込むが、紀伊半島大水害のような長い雨など調節しきれない洪水があるため、長いスケールで検討を進めていく。
ダムの事前放流に関する治水協定を結び、ダム管理者と連携しており、引き続き効果を発揮するために、他河川では既設ダムの活用について、調査、検討するという記載にしている事例もあり、そのような書き方をすることも1案である。（紀南河川国道事務所）
- 例えば既存ダムの施設改造に向けた調査・検討など、20年間調査・検討するわけではないので、何年ぐらいを想定しているのか、時間軸を落とし込んだ表現が望ましい。（藤田委員長）
□河川整備計画での表現について、ダム管理者と調整してお示しする。（紀南河川国道事務所）

- 流域治水の考え方は良いが、責任者と時間軸を具体的に決めていくことが大事である。(横田委員)
 - 河川整備計画は河川法に基づくため、河川管理者としてできることを流域治水のことも一部記載することとなる。流域治水には河川法以外の法律で実施する施策があり、別途、流域治水協議会を設置し、それぞれの施策に対して調整する枠組みができています。熊野川では、新宮川水系流域治水協議会を設置し、調整する仕組みをつくっているところである。(紀南河川国道事務所)
- 掘削土をどのように利用・ストックしているのか。洪水時に掘削土が再流出しないか心配である。(清岡委員)
 - 持続可能性の観点で掘削土は有効活用している。避難場所としての高台整備や海岸養浜事業での活用や、砂利採取業者へ分配もしている。掘削土を地域で連携しながらサイクルを回すことが持続可能性に繋がるので、それを意識した整備計画を策定していきたいと考えている。(紀南河川国道事務所)
- 掘削土を長期的に低地で危険な宅地を高台移転するための造成に利用してはどうか。(泉委員)
 - まちづくりなど高台整備をするという関係機関があれば連携して進めていきたい。(紀南河川国道事務所)
- 動植物の生息・生育に適した河床材料粒度分布の質的管理の検討だけでなく、瀬・淵の維持形成といった河床形態の管理も含めた検討を実施してほしい。(松尾委員)
- 22, 000m³/sの河道計画に掘削しても、洪水時に土砂が流れ込むので掘削断面を維持できないのではないのか。河道掘削だけでなく、総合的な対策を考えられないのか。(井伊委員)
 - 22, 000m³/sの河道断面については、出水直後の再堆積も考慮しており、実現象を意識した段階的な目標として設定している。(紀南河川国道事務所)
- 河口砂州については、河道掘削を行っても、現在の河口の形態が海に出て行くときに抵抗にならないか心配である。(瀧野委員)
 - 河口砂州の管理は河道整備をする上で課題である。特に出水の時に河口が開くかどうかは、本川水位に影響が出るため、台風期・出水期前に河口砂州をフラッシュできるような管理に注視していく必要がある。(紀南河川国道事務所)
- 洪水調節施設等による調節流量1, 000m³/sの確保は、穴あきダムを考える可能性はないのか。(加治佐委員)
 - 穴あきダムなどの構造の話も含めて、今後ダム管理者と議論していきたい。(紀南河川国道事務所)
- 総合土砂管理の観点で、河口域の砂を王子ヶ浜や七里御浜の侵食対策に役立てることが良い。(森委員)
- 地形変化のモニタリング強化に加えて、流下能力の将来変化に役立つPDCAサイクルの確立は重要である。(森委員)
- 和歌山県として洪水調節は、直轄区間のみならず上流の区間にも効果があり、非常に重要な施策のため、河川整備計画期間内での実現・目標に位置づけてもらいたい。(和歌山県)
- 河川整備の目標である22, 000m³/sも可能な限りスピードアップを図るため、手法の検討などに、積極的に取り組んで欲しい。(藤田委員長)

2. 関係住民の意見聴取方法(案)について

住民意見の聴取方法は、公聴会及び紙とインターネットを活用したアンケートにて実施することが確認された。

(委員からの主なご意見) ■委員からの意見 □河川管理者等からの回答

- 意見聴取の対象とする関係住民の定義は河川法上あるのか。公聴会の対象は流域3県だが、ホームページでのアンケートの対象は条件なしとなっている。(横田委員)
 - 関係住民の範囲については特に規定はない。意見に対して審査を行い、意見として採用するかどうか判断する。(紀南河川国道事務所)
- 法人や団体が意見しても関係住民という扱いになるのか。(横田委員)
 - 状況や意見内容による。次回懇談会で意見聴取方法を確認していただく予定である。(紀南河川国道事務所)

3. その他

第16回熊野川懇談会のニュースレターについては、閲覧用の設置のみとし、配布は行わないことが確認された。

【懇談会へのご意見受付方法】

ホームページ
による受付

熊野川懇談会に関するご意見等は「熊野川懇談会」のホームページの「ご意見」のバナーをクリックしていただくと「熊野川懇談会へのご意見等」のページが開きますので、「意見を送る」をクリックしていただき、ご意見等をお寄せください

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



FAX・原稿送付
による受付

FAX をご利用の場合、または原稿送付の場合は以下の連絡先にご連絡ください。

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント株式会社

(担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号

大阪バイタワーオフィス9階 FAX：06-6599-6050

【資料入手方法】

ホームページ
による入手

懇談会資料は、熊野川懇談会ホームページよりダウンロードできます。

熊野川懇談会ホームページ

https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html



熊野川懇談会ニュース No.17

【編集・発行】熊野川懇談会 2021年12月発行

【連絡先】熊野川懇談会 庶務

三井共同建設コンサルタント(株) (担当：豊島・楠・升水・牧野)

〒552-0007 大阪市港区弁天1丁目2番1-900号 大阪バイタワーオフィス9階

Tel: 06-6599-6024 FAX: 06-6599-6050

熊野川懇談会ホームページアドレス https://www.kkr.mitgo.jp/kinan/river/kumano_kondan/index.html

※メールにつきましては、ホームページの「ご意見等」をご利用ください。